

## LORC 2005年11月スケジュール

- 23日(水) 地域公共人材像 WG 第2回研究会  
時 間: 14:00 - 17:00  
会 場: キャンパスプラザ京都6F 龍谷大学サテライト教室  
議 題: 1. 大矢野修先生の「地域人材と自治体職員の専門性」について  
2. その他(今後のWGの進め方など)
- 28日(月) 第2班第5回研究会  
時 間: 18:00 - 20:00(食事付)  
会 場: 龍谷大学深草学舎紫光館3F 地域 ORC 会議室  
議 題: 1. 公共政策カリキュラムについて  
2. その他

## 各班活動状況

### 第1班 RA 辻本 乃理子

東京農工大 COE 地域連携室との連携プロジェクトにおいては、三重県プロジェクトが始動し、三重県総合企画局主催「新しい時代における地域のあり方」研修会が9月30日に開催されました。第1研究班代表白石教授が「地域戦略パートナーシップによる地域再生」について、三重県庁および三重県内の市町村職員を対象にご講演されました。

次回1班研究会開催については11月下旬から12月初旬を予定しております。詳細が決定いたしましたらご連絡差し上げます。

### 第2班 RA 田村 瞳

8月28日(日)に第三回研究会が開催された。ここでは、第2班の今年度のメインテーマである公共政策カリキュラムの共通要素抽出の初段階として、「公共性をどのように捉えるのか」について検討した。そして、「公共

性」をキーコンセプトとしてブレインストーミング方式を採用し、参加者全員による討論を行った。結論が出なかったため、次回以降引き続き協議することで合意し、今後ガバメントセクターと社会的セクターの関係について、そこで求められている人材を模索していくことが確認された。次に、第3班の研究員である川村先生(協力)による(大学院に派遣された北海道職員を対象とした)公共政策系大学院アンケート調査及びその対象者とのヒアリング調査に関する報告があった。今後、この北海道の事例と英国のパーミンガム市の事例を照らし合わせ、議論していくことが確認された。また、10月14日(金)に第四回研究会が開催された。ここでは、前回の協議事項であった「公共性をどのように捉えるか」の議論を踏まえ、富野先生による「公益との関連で公共性をどのように定義していけばいいのか」を視点とする、地域人材像の明確化、そしてどのようにして統合的な研修システムにつなげていくかに関する報告が行われた。次回の研究会で意見を集約するため、とりわけ富野先生、阪口先生、大矢野先生を中心に各自が案を出し、協議することで合意した。次に、阪口先生によ

る文科省が推進する GP ( good practice ) 「特色ある大学教育支援プログラム」「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に関する報告があった。この報告に関しては、採択数が多数あるため、採択された GP の中から注目すべき事例を富野先生が選定し、阪口先生と相談した上、今後の研究会で議論することが確認された。次回の研究会は、11月28日に開催予定。

### 第3班 RA 田村 隆

*\* 第3班は現在実質的な研究活動は行っておりませんが、昨年度から継続の活動が多少残っておりますので、昨年度担当 RA の田村より報告を致します。*

10月20日に第二回研究会が開催された。ここでは、第3班の提言書の内容と3年間の研究成果の取りまとめ(出版計画)に関する議論が行われた。提言書は、富野先生が作成した「地域公共人材」の開発とその社会的認証に関する提言」の原稿をもとに検討され、その提言の修正・加筆に関して各自が次回までに考えてくることが確認された。また、出版計画については、編集責任者として大矢野先生が選出され、原稿締切りを12月10日とし、年内に送稿、来春発行予定。次に、早田先生による専門職大学院の動向に関する報告が行われた。昨今の大学院改革に照準を当てたもので、第3班の認証評価制度の研究への有効なインプットとなった。次回の研究会は12月9日開催予定。

### 第4班 RA 新井 健一郎

10月中は4班の研究会は開催されなかったものの、これまで進めてきたアジア・アフリカ諸国における研修機関/プログラムサーベイの準備作業、及び、出版予定書籍に向けた研究体制整備を継続して行った。特にインドでの研修に関しては、10月30日から11月6日の予定で、昨年に引き続いて、名古屋市の加藤里香氏がカタルナカなどを訪問し、追加調査を行う予定としている。( 昨 年 の 調 査 報 告 書 は [http://lorc.ryukoku.ac.jp/docs/india\\_report.pdf](http://lorc.ryukoku.ac.jp/docs/india_report.pdf) に掲載。) また、10月6日に開催された、「地方行政と参加型地域社会開発 - インドネシア・タカラールモデルの経験から - 」( JICA 主催、LORC・アフラシア平和開発研究センター共催、コーディネーター：河村能夫先生 ) は、分権や協働に関する諸問題が世界的に共有されていることを確認し、また、インドネシアでの住民参加型政策形成の

成功事例をプロジェクトに携わった当事者から直接伺うことができた、LORC の研究にとって非常に有益な研究会であった。

### 特定研究 WG 担当 RA 朴 重信

10月4日には、政策デザインWGの活動として、滋賀県の高島市市長との面談会が開催されました。参加メンバーとしては、龍谷大学 LORC の広原先生と朴の2人、そして高島市の海東市長と職員ら7人の合計9人です。面談会では、前回(8月24日の高島市視察)の会議内容に基づき、広原先生が高島市と龍谷大学(LORC)・東京農工大学(COE)の共同研究として、「地域と大学を結ぶまちづくりモデルプロジェクト研究」を提案し、その内容について意見交換を行いました。「地域と大学を結ぶまちづくりモデルプロジェクト研究」について簡単に紹介します。プロジェクトのスケジュールとしては大きく3ヶ年度に分けて提案しました。初年度には、龍谷大学担当の「協働型社会における住民・行政パートナーシップについて」と、東京農工大学担当の「循環型社会におけるまちづくりの方向と手法について」のワークショップを行い、これらを通じて具体的なテーマを明確にし、次年度の課題を検討する。2年度目には、ワークショップの成果を生かし、職員研修プログラムを具体化し、市民・住民向けの公開シンポジウムを開催する。最後に3年度目には、2年間の成果を報告書としてまとめ、パンフレット化して小中高校教科書の副読本として利用する。また、報告書をテキストにして全職員の研修プログラムを具体化し、「これからの高島市のまちづくりを考えるワークショップ」を開催することを提案しました。

結果、提案書に対する高島市の意見と今後の推進方向としては、基本的に、提案書の内容を高島市の「環の郷」計画に取り入れて地域づくりの理念として推進すること、とりあえず、初年度のプログラムを実行した上で、次年度の企画内容を協議していくこと、初年度のプログラムの実行については高島市内部会議で協議し、後ほど通知すること、これからは各分野の実務レベルの担当者を決めて推進していくことを決めました。

現在は、実務レベルでの協議のため、その具体的な予算と計画について取り組んでおります。

## LORC information

### 国際シンポジウム「地方政府主導からマルチパートナーシップへ – 地方分権時代の新たな公共性に対応する人材育成システムの創造」を開催します

9月末に一度メールリストでお知らせしたように、2006年1月20日(金)・21日(土)に、国際シンポジウム「地方政府主導からマルチパートナーシップへ – 地方分権時代の新たな公共性に対応する人材育成システムの創造」を京都市内に開催します。政府主導からガバナンス(協治)への移行を総括しながら、その潮流の中で地域社会の変革を担う人材を育成する新たなシステムをいかにして創造してゆくのか、また、各セクターの壁をこえた地域人材育成システムを今後どのように構築すべきかといった課題を、イギリス、ドイツ、南アフリカ、インド、フィリピン、日本から研究者・実務家を招いて国際的な視野から議論する場となることが期待されます。1日目は基調講演とパネルディスカッション、2日目は教育研修・人材育成に焦点を当てたワークショップとすることを軸に、現在プログラムを調整中です。詳細は近日中にご案内いたしますので、今しばらくお待ちください。多くの研究員の皆様のご参加をお待ちしています。

### 白石先生一行がイギリスで調査を行います

第1研究班の白石先生と、第2研究班の土山先生、第3研究班研究員の小山善彦氏(お2人は現地合流)、そしてPD的場とRA辻本が、10月30日より約10日間の予定でイギリス調査を行います。今回は、英国副首相府(ODPM)のNeighbourhood Renewal Unit(1班が研究している地域戦略パートナーシップの促進を担当するユニット)、南ウェールズのGroundwork Merthyr & Rhondda Cynon Taf(地域再生を目的としたチャリティ団体)およびRhondda Cynon Taf Better Life Consortium(ウェールズ型地域戦略パートナーシップの一例)、そして湖水地方でチャリティ活動を促進する基金などを運営している4,5団体を訪問することになっています。調査結果は、今年度末あるいは来年度初旬に発行予定の第1研究班のブックレットなどにインプットされます。良い成果を期待しましょう!

## LORC 資料室内文献紹介

皆様からも有益な文献・映像資料などの情報をお寄せ下さい。ご協力宜しくお願い致します。今月号では休ませていただきます。

雑誌の情報は以下のサイトへ!

ガバナンス

[http://www.gyosei.co.jp/book/g\\_zassi/gover/index\\_gover.html](http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html)

日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

## 掲示板

### 新聞・雑誌などの記事について

新聞、雑誌などにご自分の記事が掲載された時は、ぜひ LORC 支援室の場 ([matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp)) までお知らせ下さい。こちらでも出来るだけピックアップするようにしていますが、すべてをカバーするのは困難ですので、宜しくお願い致します。

## 土山先生のアイルランド滞在記

### No Problem と私

「No Problem」をよく聞きます。アイルランド固有の傾向なのかは知りませんが、よく聞きます。「Thank you」にも「No Problem」。「You're Welcome」はあまり聞きません。お店でのやり取りはほとんど「No Problem」です。

さて、5月のある日、私は LORC の調査に合流するために愛用の小型トロリーを引き、空港行きバス乗り場に急いでいました。そのとき、突然携帯が。まだ知り合いも少なく、携帯が鳴るなんて珍しいことです。着信表示をみると、部屋を借りた不動産屋の担当者、明るく素敵なアイリッシュのお嬢さん、ミス・ダイヤモンドです。

「Hi, Kimie (キミーと読んで下さい)。調子どう?」「ありがとう、どうしたの?」「今月分の家賃が振り込まれてないの」「えっ!」支払い日は10日前です。3月末の契約時にデポジットと1ヶ月分の家賃を払い、今月から月例の振込開始となるはずでした。蒼白の私。「先月銀行に口座を作ったとき、自動振込の手続きをしたんだけど」。何かまたミスをしたのでしょうか。支払い初めに10日も遅れているなんて、家主さんは何と思っているでしょう。しかしミス・ダイヤモンドはいつもの明るい声で軽やかに答えます。「たぶん銀行がミスしたのね。No Problem」。えっ、銀行? いや、それよりこの事態は Problem でしょう。「いま外?」「あ、実はいま空港に向かうところなの。これから調査でイギリスに10日くらい出かけなくてはならなくて。もちろんできるだけ早く対処するけど、旅行先で処理できるかどうか...」「No Problem. オーナーにそう伝えておくから。じゃ、いい旅行を!」。バスの中で会話を振り返ってみます。一刻でも早く解決したいところですが、帰ってきてからの対処にならざるをえません。銀行のミスより自分のミスの可能性のほうが高い気がしますし、帰国してから家にある振込先などの書類を持ってじかに話にいったほうがよさそうです。なんといっても「No Problem」。心配しながらも、対応できない間は忘れることにしました。

さて、帰国直後。自分のミスを恐れつつ銀行に行って相談したところ、銀行のミスで手続き完了していないことが判明。「銀行って、ミスするんだ!」と鮮烈な驚きに包まれます。これが「異文化体験」か... (? )。担当者がコンピュータ上で口座からの振込処理をできず、私が ATM から該当金額をいったん引き出して窓口にもた持って行き、現金で振込処理作業をしてもらおう、というおまけはありましたが、とにかく入金完了。念のため銀行から説明を文書にしてもらいます。家主さんに送りましょう。「来月は大丈夫ですか? 他の引き落としも」「大丈夫です」。ようやくほっと一息。それにしても、ミス・ダイヤモンドの様子からすると、銀行のミスはあまり珍しくないのでしょうか。そして、必死に説明したとはいえ、十分に嘘を疑えるような内容で、のべ3週間ちかくの家賃滞納があんなに明るく簡単に済まされるとは。恐るべし「No Problem」!。思い出すたび「いや~、それは Problem だってば」とひとりツッコんでしまいます。すごいことです。ちなみに、2ヶ月後の振込はなぜか指定日から1日遅れていたのですけれど、そのときは私も「1日だし、No Problem」。慣れたものです。

## LORC 研究員のひとこと（紹介）

今月の研究員紹介は、第4班の青木恵理子先生です。

青木恵理子

龍谷大学社会学部教授

1979年からインドネシアの東南部にあるフローレス島で文化人類学のフィールドワークをしてきました。4分の1世紀の時の流れの中で、フローレスの人々の暮らしも大きく変化してきました。焼畑地の荒廃、商品作物の導入、工場労働者として他島への出稼ぎ、多くの場合非合法的な近隣諸国への出稼ぎ、政府主導の家族計画の影響。人々の生活世界を貧困化しないようにするには公共政策や地域開発はいかにあるべきか。フローレスでのフィールドワークを通じて考察するのが、このORCにおける私の役割だと思っています。

## 編集後記

朝、目覚めたら部屋が暗く、夕方、建物を出るとすでに日は落ちて。LORC支援室から見える山々も色づき始めています。朝夕の冷え込みに体がついていかず……。秋のおとずれを日々の生活で感じとっています。(N) 季節の変わり目、体調を崩されている方が多いようです。お体にお気をつけてください。(K)

先日念願のダイバーのライセンスをゲットしに沖縄へ。木枯らしの吹く京都とは違い沖縄はまだ夏でした。(H) 阪神タイガーズが日本シリーズでロッテマリーンズに4連敗で負けてしまいまして、非常に悔しく思っております。あいにくロッテの韓国人の李さんが結構素晴らしい活躍を見せ、これをどう受け止めたらいいのか分からなく場面もありました。しかし、阪神ファンは阪神ファン！来年も相変わらず、阪神が優勝するように応援したいと思います。皆さん、朝夕だいぶ寒くなりました。お体にお気をつけて下さい。(J)

今回は、私が10月30日から11月中旬まで海外出張のため、編集作業をJさんをお願いしました。Jさんどうもありがとう！留守中皆様にはご迷惑をおかけしますが、どうぞ宜しくお願い致します。(T)

LORC Newsletter Vol.14, 31 October 2005

編集・発行：龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター（LORC）支援室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

TEL: 075-645-2312 FAX: 075-645-2240

E-mail: [matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp) (PD 的場) WEB: <http://lorc.ryukoku.ac.jp/index-jp.html>